

1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 もくれん)

事業所番号	0671300259		
法人名	社会福祉法人 みゆき福祉会		
事業所名	グループホームみずほ		
所在地	上山市牧野字妻神1615		
自己評価作成日	平成 25年 12月 20日	開設年月日	平成 15年 4月 14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然豊かな地域の中で、地区住民と関わりを持ちながら、一人ひとりの気持ちや出来る力を大切にしながら、生き生きとした生活が送れるよう支援している。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)
(公表の調査月の関係で、基本情報が公表されていないこともあります。御了承ください。)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokensaku.jp/06/index.php>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 エール・フォーユー		
所在地	山形県山形市小白川町二丁目3番31号		
訪問調査日	平成 26年 1月 17日	評価結果決定日	平成 26年 2月 4日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

果樹畑などに囲まれ、利用者は季節の移ろいを感じながらゆったりと過ごしています。隣接して同法人の特別養護老人ホームとデイサービスがあり常に協力体制が築かれています。また地域の応援団「みずほの会」の住民がグループホームの行事や防災訓練にいつも来てくれる良好な関係が出来ており、更に緊急時には法人の医師や看護師のバックアップがあるため職員は安心してケアに当たる事ができ、それが利用者の心身の安定にも繋がっている事業所です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自 己	外 部	項 目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム理念を職員が周知し共有するとともに、施設内や勤務表にも掲げている。年間計画や行事を企画する際は地域との交流も意識しながら組み入れている。	今年度は「人としての尊厳を大切に」に重点を置き、接遇に力を入れて取り組んだ結果、言葉かけが変わることにより利用者に接する態度も変わり、相乗効果でケアの質向上に繋がっている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地区の神社への参拝、笹巻き作りや地域の特産物を使ったお菓子作りや和菓子作り教室、地区で出来たとりたて野菜を頂きバーベキューをしたりと、季節に合わせた交流がある。夏祭りや防災訓練への参加協力もある。	「みずほの里」全体の地域住民のサポーター「みずほの会」が事業所の夏祭りやバーベキュー、防災訓練等に参加協力がある。ボランティアの催し物などには散歩がてら隣の施設に出掛けて合同で交流している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	年に2回グループホームだよりを発行し、地域に日常の様子などお知らせしている。認知症の理解のための出前の講座等を継続し実施している。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的(2ヶ月に1回)に会議を開催し、利用者の生活の様子やホームでの取り組み等を報告している。防災訓練などにも参加して頂き、感想や助言を頂いた。話し合いの内容は職員に会議や書面で伝えている。	運営推進会議は家族・地域の関係者・市と情報交換し、日頃の取り組みに活かされている。また同日、交流スペースに「喫茶陽だまり」が開かれ引き続き防災訓練への参加協力が得られている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の介護サービス担当者会議や市で主催する研修会へ参加している。また運営推進会議の席で意見交換をしている。	市とは運営推進会議の他、市の介護サービス担当者会議に参加し、研修や相談をしている。高校の実習生を受け入れて指導等も行っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	法人での身体拘束をしない研修に参加し、委員会活動でも身体拘束をしないケアの検討をしている。玄関の鍵は開けてセンサーを設置するなど、個別に工夫しながら対応している。現在ホームでは身体拘束の対象者はいない。	職員は拘束のないケアを目指し日々研修を実施している。認知症でとても繊細な方もおり、一人ひとりの感情や行動を把握して見守りながら対応し、転倒の危険には充分配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎年法人で高齢者虐待防止等についての職員研修があり参加している。参加できなかった職員には研修資料を回覧している。			
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	毎年法人で研修があり参加している。日常生活自立支援事業や成年後見制度は利用者個々について、法人の相談員と連携しながら進めている。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は事前に十分な時間をとり説明を行っている。また、不明な点やわからない点は後日においても説明し、納得の上契約いただいている。退居の際も十分な話し合いの場を持ち、納得の上で退居されている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会や行事の際は必ず利用者の状態を話し、家族の意向も聞いている。苦情を受け付ける意見箱の設置をしており、苦情解決委員会で検討の仕組みがある。第三者委員による利用者の意見を聞く機会もある。	昨年より家族アンケートを実施し、感謝の言葉が多く聞かれている。また月一回利用者の写真と便りを送り、暮らしの様子がよくわかると喜ばれている。その他「自由に意見を」の用紙を郵送して意見や要望をもらいサービスに反映している。		
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	週1回のカンファレンスと2ヶ月に1回の全体会議で意見や提案を出し合い実践に結び付けている。職員とは年に2回面談の機会があり、その場で運営に関する意見など聞きだし、反映できるよう努力している。			
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各自が向上心を持って働けるよう、職場環境や条件の整備については、法人として全体で継続的に検討している。安全衛生委員会で職場環境やメンタル面のサポートも厚くなっている。			
13	(7)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人の職員研修の機会は多く、また、グループホーム独自の研修もあり出来るだけ多く参加できるよう勤務を工夫している。個人レベルの資格取得者も多い。	みずほの里全体の教育研修委員会の年間計画に沿って、事業所独自にいろいろなテーマで勉強会を行い成果報告をしている。職員の腰痛予防のためヨガ講習などもあり効果をあげている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	山形県、村山ブロックのGH連絡会に所属し、各種会議への参加、年2回の交換研修、新人研修、中堅研修に参加し、他施設職員との交流も深め職員のスキルアップにつながるよう取り組んでいる。	グループホーム村山ブロック連絡会に参加し他事業所との訪問研修で刺激と気付きを貰い、質の向上に役立っている。また市内3事業所の管理者同士の交流も行われている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居の際は居宅からの紹介や情報の他、家族や本人のもとに実地調査に赴き得た情報を職員全員で共有し、本人・家族の安心を確保する為の関係づくりに努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の不安が出来るだけ少なくなるよう見学してもらい、本人、家族の思いをよく聞くよう心掛けている。入居してからも面会の折には様子を詳しく伝え、積極的にコミュニケーションを図っている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	法人の生活相談員や居宅事業所のケアマネジャーなどと連携をとりながら、その時々に応じた対応に努めている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常の会話での気づきや、アセスメントシートを活用し、本人のできる力を大切にし、出来そうなところを一緒に行う事で関係作りをしている。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には生活の様子を詳しく伝え、行事には参加の案内、お便りには写真を入れて送付している。家族と本人の関係を大切に、本人を共に支えていく関係を築いている。			
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会や外出の際は、知人や友人に会えるよう努め、なじみの暮らしの継続ができています。上山のお祭りにも出かけています。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係作りに配慮している。家事や余暇活動の際は、個々の人間関係に配慮して活動を楽しめるように工夫している。孤立する利用者に対しては、職員が間に入るようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が長期入院などで終了される方へ、居宅や病院と相談しながら本人・家族への次への支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃から本人に生活の楽しみ、食の楽しみ、要望など話す機会を持ち、本人の意向がかたうよう心がけている。カンファレンス時には、センター方式の一部を用い、本人の気持ちを大切にケアプランに繋げている。	「私の暮らしシート」「私の姿・気持ちシート」「私ができること・できないことシート」を活用し、介護・看護経過記録を毎日記録して、利用者の発した言葉を聞きのがさないよう思いを汲み取っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を中心に、本人との会話や家族に協力を得ながら情報を得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの過ごし方については1日の流れ(24時間シート)を作成、心身の状態、有する力等は心身のアセスメントシートにより把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当職員が主となり、家族の意向を聞きながら情報収集し原案を作り、ケアカンファレンス等でアイデアを出し合いケアプランに繋げている。	担当職員を中心に全職員で生活記録や申し送り表をしっかりと把握して、利用者・家族の意向に沿ったプラン作りをしている。更に3ヶ月に一回実践状況をみて次のプランに反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護看護経過記録・生活記録・申し送り表などで日々の様子を把握している。ケアプランの実践状況や気づき、本人の言葉の記入があるため、ケアプランを見直す際に活かされている		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 (小規模多機能型居宅介護事業所のみ記載) 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる				
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域支援団体みずほの会を通して、防災訓練など地域の協力を得ながら行っている。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の希望を大切に、在宅の医療機関の受診を継続している。通院の相談や報告などの連携もしている。また、協力病院の往診も受けている。	利用前からのかかりつけ医を主治医とする利用者は家族の付き添いで受診し、他の方は協力医の往診を受け、受診結果は互いに共有している。緊急時や夜間の対応は法人の看護師より指示をもらい、医療機関との連携も図られている。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制を取り、看護師に状態の報告・連絡・相談を行っている。日々の利用者の健康観察を行い、適切な指示が受けられている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の病院や協力病院の医療福祉相談員とその都度情報交換を行い、連携を図り早期退院に努めている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りについて法人の研修会に参加の他、ホームの会議においても学習会を開き、職員の理解を深めている。本人の状態に応じ、その時出来る事は何か支援方法を検討している。	重度化した場合は、主治医・家族・看護師・管理者で話し合い、状態に応じて方針を確認しながら、看取り介護も視野に入れた支援体制を整えている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員が年に1度応急手当や初期対応・AEDの使い方などの訓練を上山市の消防署の職員より受講し、実践力を高めている。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回消防署や地域の方の協力を得て、夜間想定も含めて防災訓練を行っている。運営推進会議のメンバーにも防災訓練に参加していただいている。	消防署立ち合いのもと年2回避難訓練を実施し、参加者から講評をもらい次回に繋げている。今年は図上訓練やイメージトレーニングを取り入れ、職員一人ひとりの防災意識の高揚に努めている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ホームの雰囲気大切に、職員はモラルを持って利用者の支援にあたっている。接遇力向上、利用者の尊厳を大切にしたい取り組みの意識付けをしている。	事業所理念の「人としての尊厳を大切に」を常に意識しながら言葉遣いや丁寧な接遇を心がけている。また、「家族アンケート」や「接遇チェックリスト」で職員の質・意識向上を図っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の言葉や行動、表情には常に注意を払い、職員間で情報を共有できるようにしている。本人が応えやすいような言葉がけをしている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースにあわせ、希望に添えるよう意見を聞きながら支援している。意思表示が困難な場合は、体調・表情を見ながら個々に合わせ支援している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時の整容に気を配り、清潔で季節に合った衣類で過ごせるよう支援している。おしゃれして外出できるように支援をしていきたい。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎食ではないが簡単な盛り付けや、準備などを一緒に行っている。食器拭き等の片づけは毎食後職員と会話を楽しみながら出来ている。誕生会にはリクエストメニューなども取り入れ希望に沿った食事になっている。	昼食は隣接する法人の特別養護老人ホームから配食されているが、朝夕は特養の献立を参考にリクエストメニューも取り入れながら作っている。食事・水分量の把握やヨーグルト・寒天ゼリーなどを提供して便秘予防にも取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量、排泄についてチェック表を用い職員で把握している。献立は業者の献立表を参考にして、栄養バランスのとれた食事になるよう心掛けている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人で行える、声かけで行える、一緒に行く、全介助等段階に応じ支援している。夕食後は出来ているが、毎食後の口腔ケアはまだ出来ていないため段階を踏み支援していきたい。			
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	トイレに行きたいというサインを見逃さずトイレに誘う事や、定時にトイレ誘導するよう支援し、自力でトイレに行ける利用者にはさりげなく状況を聞いている。排泄パターンを掴み、個々に合わせた支援を行っている。	自立の方にはさりげなく声を掛け、他の方はしぐさや排泄チェック表を活用してトイレでの排泄を支援している。職員は尊厳に拘るところと周知し、声掛けや介助に気を配っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	「下剤に頼らない排便」の取組を水分＋運動を基本に、毎朝オリーブオイル入りのヨーグルトの提供、乳酸菌飲料や食物繊維の多い寒天ゼリーの摂取を工夫している。個々の排泄パターンに合わせ支援している。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	曜日やメンバーの設定は行わず、一人ひとりの生活ペースと状態にあわせ、見守り・声かけし、気持ちよく、また、清潔が保てるよう入浴を支援している。	一人ひとりに合わせた湯温で気持ち良さを実感してもらいながら入浴している。職員と1対1で会話を楽しみながら、出来るところはやってもらい、転倒や身体観察など安全・健康面に気を付けている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣をふまえ、家事など本人の体調や様子を見ながら、声掛けしたり、休んでもらったりしている。午前は歌や運動を中心に午後には個別で出来るものを心がけ、安眠につながられるよう心掛けている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の一覧表によりスタッフが薬について理解できるようにしている。薬係を中心に薬の管理を行っており、受診の際は看護師と連携しながら医師に状態を上申している。変更がある場合は申し送りを徹底している。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の力を生かした家事に参加の場合は、気持ちよく行ってもらえるようその都度感謝の言葉を伝えている。外出やみずほの里での行事などへは、楽しみと気分転換を兼ねてできるだけ参加できるように支援している。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	みずほの里のイベント(音楽療法や絵手紙教室・喫茶等)に楽しみながら参加できるよう支援するとともに、季節にあわせた外出(桜・あじさい・紅葉等見学)や、外食会を企画し普段行けない所にも行けるよう支援している。	年間計画でイベントなどの行事予定はあるが、普段は日用品やおやつの買い物に状況に応じて車で出かけている。自然豊かな地域を五感で感じてもらえる様に積極的な外出支援をしている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個別に対応している。個人の雑貨などの購入に使っているが、本人が支払うのは困難のため職員が代行し、本人に伝えている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの電話や手紙があった際は、本人に確認してもらい、必要があれば電話に直接でもらっている。個別に本人の希望があればつないでいる。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ダイルームや廊下には、季節感のあるものを飾り、共用の空間は、利用者同士のコミュニケーションがとれるよう席の配置を工夫している。また、お互いのプライバシーに配慮し、居心地の良い場所になるよう配慮している。	啓翁桜を活けた玄関作りから「自分の家」としてのこだわりをもち、リビングの団子木など季節感を大切に飾りつけが利用者・家族からも好評を得ている。自然に皆が集まり寛いでいる姿はアットホームな雰囲気が感じられ、所々にソファやベンチを配置してひと息つける場所も大事にしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂には一人ひとりの席を設けており、気の合う利用者同士の席を近くし会話を楽しめるよう配慮している。テレビの前や廊下にはソファを置き、和室にもソファ・テレビを置き、いつでもくつろげるようにしている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に本人・家族と相談しながら居室作りをしている。ベッドの位置は自宅と同じように、また使い慣れた家具を持ち込み、自宅に近いように配置している。	「畳敷きに障子、襖」といった純和室の部屋もあり、家族と一緒にレイアウトした居室はそれぞれ趣きがあって自宅と変わらない環境を作っている。また、各部屋近くにトイレがあり安心に繋がる作りになっている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや廊下、浴室には手すりがあり、つかまれば出来る事(立ち上がりや立位の保持等)の支援につながっている。			